

年の始めに無病息災を願い、地域の絆を深める伝統行事

「馬橋どんどやき」を開催！

8日、杉並第六小学校（阿佐谷南1-24-21）で、1年の無病息災を願い、地域の絆を深める正月の伝統行事「馬橋どんどやき」が馬橋地区連合会の主催で開催されました。会場に集められた約12平方メートルのビニールシートが埋まるくらいの正月飾りが、勢いよく燃えると、およそ150名の来場者から大きな歓声が沸き起こりました。また、会場には、地域の子供たちによるお神輿担ぎや獅子舞、太鼓の演奏などが行われ、来場者を楽しませていました。

「どんどやき」は、正月に飾った門松やしめ縄、お守り、祈願成就した「だるま」などを持ち寄って燃やす日本の伝統行事です。「どんどやき」の火や煙にあたったり、焼いた団子を食べるとその1年間健康でいられるという言い伝えがあります。1年の無病息災を願い、地域の絆を深める年始の伝統行事として、馬橋地区で毎年行われています。

8日（水）足元から冷え込む中、杉並第六小学校で、馬橋地区の今年で33回目となるどんどやきが行われました。この日、燃やされたのは、約12平方メートルのビニールシートが埋まるくらいの正月飾り。これは、前日の7日（火）近所の子供たちや町会の人々が、リヤカーで町内を回って集めたものです。どんどやきは、まず、校庭の真ん中に、ブロックで約3メートル×3メートルの囲いを作り、その中央



に集めてきた正月飾りを煙が天に上るように空へ向けて積み、火をつけます。燃え始めると、勢いよく煙がたち上がり、会場からは歓声が沸き起こりました。子供たちは、自分の方へ煙がくると、大きな声で「助けて！」と笑顔で叫びながら駆け回ったりして、楽しんでいました。

10分ほどすると煙は収まり、炎がくっきりと見えるようになると、無病息災を願う餅焼きが行われました。子供たちは、竹の先から垂らした針金にくくりつけた餅を、恐る恐る火に近づけて焼き、焼いた餅をおいしそうに食べていました。

また、会場では、有志で参加しているおよそ40人の子供実行委員によるお神輿や獅子舞、太鼓の演奏などが行われ、会場を盛り上げていました。

馬橋地区連合会の秋山とよ会長は、「どんどやきは、地域みんなの力でできている。来年以降も続けていく」と話していました。

1月11日（土）には、今回で36回目となる「井草どんど焼き」が、八成小学校（井草2-25-4）で行われます（雨天の場合は12日（日）に変更）。